No.81

＼明日の授業に１ページのエッセンスを／

# らいぶ LIVE創 CREATOR つくりえいた～

２０１９年１２月

CONTENTS


●教育研究発表会御礼
●ＩＣＴ活用授業研究会ご案内
●実践紹介
・社　会　科　「単元を貫く課題と言語活動」
・理　　科　「理科における単元を貫く学習デザイン」
・外国語活動　「魅力的な外国語活動」
・生　活　科　「元気な野菜を育てよう」
・道　徳　科　「道徳的行為に関する体験的な学習」
・健康教育　「輝く未来につながる健康教育」
・算　数　科　「たすのかな　ひくのかな」
・体　育　科　「表現遊び」
・国　語　科　「『一つの花』の読みを深める」
●コラム「外国語活動あれこれ」・編集後記




## 教育研究発表会御礼

11 月３日（日）に開催いたしました教育研究発表会 2019 では，550 人を越える先生方にご参会いただきました。本研究発表会を開催するにあたり，学校提案「未来に生きて働く資質・能力の育成（２年次）～探究力を育むカリキュラム・マネジメント～」を具現化し，探究的な学びの姿を観ていただけるよう，カリキュラム・デザインや学習課題づくりを中心とした研究に取り組んできました。研究協議会では，「カリキュラムをどのようにつくってきたのか」「本実践でどのような資質・能力の育成をめざしていたのか」「学習課題の代案は，このようなものがあります」など，活発にご意見をいただけたことは大きな財産となりました。ご参会いただいた皆様には，本当に感謝しております。ありがとうございました。



さて，皆様からいただいたご意見をもとに研究の成果と課題を明らかにしながら，来年度「未来に生きて働く資質・能力の育成（最終年次）」の構想について歩み始めたところです。来年度の研究発表会も，田村学先生を招聘し，令和２年 10 月 31 日（土）に開催する予定です。３か年の資質・能力研究の成果を観ていただけるよう，さらに研究に取り組んでまいります。多くの皆様にご参会いただけることを心よりお待ち申し上げております。

研究主任　小谷 祐二郎


和歌山大学教育学部附属小学校

# ICT活用授業研究会

8本の公開授業！
座談会とプログラミング体験
豊田先生の全体講評



全体講師

和歌山大学教職大学院教授

**豊田　充崇　先生**

**2020年1月25日(土)**

http://www.aes.wakayama-u.ac.jp/kenkyukai/

事前申込を開始しています。上のURLか2次元コードを読み取ってアクセスし，お申し込みください。日程等の詳細もご覧いただけます。

和歌山大学教育学部附属小学校

## 情報モラル



1年　道徳科
授業者：田中千映
題材名：「いたずらがき」

いたずらでウソを書いてもいいの？

## フローチャート



2年　算数科
授業者：南　拓哉
題材名：分　数

フローチャートを使った確認や活用

## ネット依存予防



3年　社会科
授業者：山中和幸
題材名：わたしたちの
生活と情報

複合単元で学ぶネットモラル

## プログラミング（スフィロ）



4年　総合的な学習の時間
授業者：中岡正年
題材名：Let's Dance! My Robot Ball !!

プログラミングで思いを伝えるロボットボール

## データサイエンス



5年　体育科
授業者：則藤一起
題材名：Basketball
～5B ウインターカップ～

データでシュート成功率アップ！

## プログラミング（ドローン）



5年　社会科
授業者：西原有香莉
題材名：災害時に活躍する
未来のドローン

ドローンで人命救助できる未来

## 情報活用



6年　社会科
授業者：平井千恵
題材名：わたしたちのくらしと政治
～ニュースから見る社会～

情報を精選して政治を見よう！

## プログラミング（アーテックロボ）



1・2年複式　生活科
授業者：中西　大
題材名：1年…冬の自然と暮らし
2年…働く人の工夫や努力

どうして自動で動いているの？

# らいぶすくえあ#1

社会科
6年C組担任
平井 千恵

## 単元を貫く課題と言語活動
### ～グラフを対比しながら考えよう～

**歴史好き？歴史学習好き？**

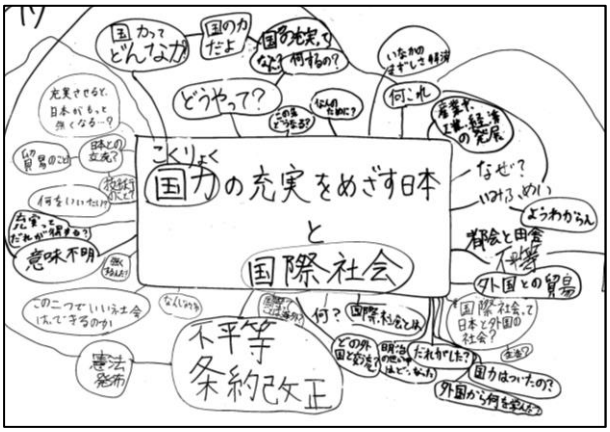
子どもは，歴史漫画（物語）が大好きです。しかし，歴史学習となると話は別です。教科書は説明文のため，事象を読んでも「よくわからん」となります。資料と関連付けたり，発問したりすることで少し反応が変わり，「そういうことか」と理解します。ただし「おもしろい！」と言えるかというと，そこは子どもによりけりです。極論をいうと，私は歴史漫画を読めば，歴史動画を見れば，楽しく歴史を知ることができるとさえ思っています。

なぜ歴史を学習するのでしょうか。学習指導要領では**「歴史を学ぶ意味」**を考えさせることが明記されています。歴史学習は，人物の目から事象を知ることだけではなく，その人物や時代背景から何を感じ取るのか，何を考えるのかが求められているのです。

では，どうすればそれが可能なのでしょうか。教材開発がされ，指導方法も多く実践されています。そんな中で私が実践したのは，**単元を貫く課題の設定**と**単元を貫く言語活動**です。「もうやっているよ」と言われるかもしれませんが，今回の実践では，子どもに問いをもたせ，その問いを解決するためにグラフを通して事象を共有する学習活動を行いました。協働的に学び，時代背景や当時の人の見方・考え方を捉えることで，当時の人に寄り添い考えを深めさせようとしました。

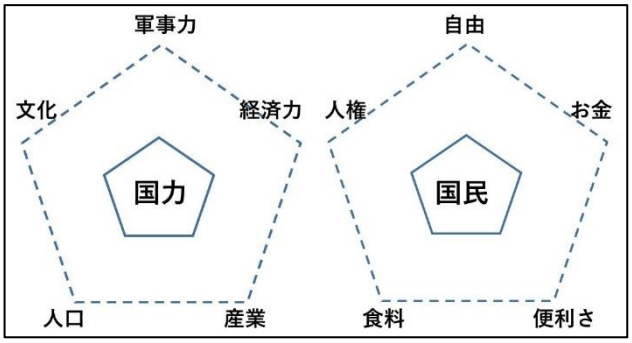
**単元を貫く課題設定**

単元導入時，単元名だけを板書し，「思ったことを何でもいいからできるだけ出しましょう」と指示しました。子どもの目も手も止まりました。「意味わからん」「どういうこと」それでも話し合いながら課題に向き合います。出された課題の中から，最後まで残りそうな課題を，**単元を貫く課題**としました。「国力はついたのか」「誰のための充実か」がそれにあたります。




**単元を貫く言語活動の設定**

「国力って何？」という疑問が挙がり「国の力」や「国民のこと」などの意見が出たため，その２つを定義しました。そして，下の２つのグラフをもとに話し合いました。




**学習スタイル**

まず，家庭学習で該当ページを音読し，国力の充実グラフと国民の幸福度グラフを作成しておきます。

次に，授業でそれを共有しながら課題について話し合います。子どもたちは，学習が進むに連れ，「国力だけが大きくなり，国民の幸福度はそのままか，下がっていく」ということを知り，驚きます。こうして単元の概念的知識である「日本の国力は充実し，国際的地位が向上した」ということを捉えました。しかし，国民の幸福度は下がったままです。

最後に，単元の終盤で**問題解決“構想”の時間**で，下がったままの国民の幸福度を上げるには，どの問題をどのように解決するのか，**時代背景を捉え，当時の人に寄り添って**自分がこの時代に生活するならどんな方法を考えて実行するのかを考えました。

『政治に参加し政策を変える』『女性の地位を向上させるため団体を作って政府にうったえる』『料理屋を開いて収入と女性の職場を増やす』など，グラフを対比させることで互いに関わりながら様々な角度からの解決案が出されたのは，大きな成果でした。



## 附属人

**# 歴史，寄り添う，考える**



学習スタイルについて，どんな方法がよいのか試行錯誤の日々です。
「一緒に研究しませんか？」
「一緒に実践しませんか？」
教師も協働的な学びが必要だと感じています。視野を広げ，よりよい実践ができるよう，ともに学び合いましょう。

chirai@wakayama-u.ac.jp

# らいぶすくえあ#2

## 理 科

4年C組担任
久保 文人

## 理科における単元を貫く学習デザイン
### ～４年生「電流のはたらき」より～

４年生「電流のはたらき」の実践において，子どもに問題を顕在化させ，それを解決するための学習デザインを紹介します。

単元に入る前に…

本実践では，「坂道」を用意しました。モーターカーにこの坂道を上らせようとすることで，子どもたちが問題を顕在化できると考えたからです。モーターカーは，子どもたちにとって魅力的な教材です。３年生のときに風やゴムで走る車を経験しているものの，電池がなくなるまで走り続ける車は，子どもたちにとって興味深いものです。そのモーターカーに「坂道」の要素を加えることで，本単元で指導すべき内容（乾電池の数やつなぎ方を変えると，電流の大きさや向きが変わる）に迫るような気付きや疑問を抱くだろうと考えました。



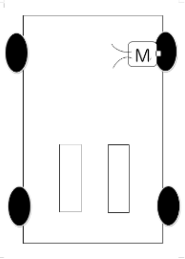
授業の様子

モーターカーを組み立てた後に，早速坂道を走らせました。このときには，乾電池を１個渡しました。何度も坂道を乗り越えさせようとするのですが，うまくいきません。しばらく試す時間を設けた後，様々な気付きや疑問を共有する中で，「４C全員のモーターカーが，坂道を上るようにしたい。そのために，『①モーターカーが逆走しないようにする』『②モーターカーが速く走るようにする』方法をそれぞれ調べる」を，単元を貫く問題に設定しました。



１つ目の問題について，「乾電池を入れ替えるとモーターカーの走る向きが変わる」という気付きから，「乾電池を入れ替えると電流の向きが変わる」という結論を導くことができました。

２つ目の問題について，坂道を上るようにするために「モーターカーを軽くする」「乾電池を２個にする」という案が出ました。モーターカーを軽くする説を検証するため，取り付ける部品を最小限にしました。しかし，それでも坂道を上ることができません。そこで電池２個説を試しました。ここでも問題が発生です。乾電池２個をどうつないだらいいかわかりません。そこで右のようなワークシートに導線を書き込み，その図の通り回路を作成しました。子どもたちの図は，見事に「直列回路」「並列回路」「ショート回路」「電流が流れない」の４つに分かれました。直列回路と並列回路について学ぶことができただけでなく，全員がモーターカーを上りきらせることができました。




単元を貫く学習デザインの効果

一番の成果は，「子どもたちが何のために学習をしているのかを自覚しながら学習を進めることができ，主体的に学習する姿や見通しをもって実験をする姿を引き出すことができた」ことです。追究したいことが顕在化しているからこそだと感じています。

教材情報

坂道は，ホームセンターで購入した合板をつなぎ合わせた自作のものです。坂の高さは，走らせるモーターカーに合わせて調節します。今回は，高さを 28cm に調節しました。



○教室に設置することで，いつでも実験を行うことができます。
○「坂道を越えたい」という明確な目標が生まれ，その目標の達成度も判断しやすくなります。
○モーターカーの性能に応じて，坂道の高さを自由に調節できます。

## 附属人

＃単元を貫く，坂道



「実験だけが楽しい」理科の学習からの脱却をめざしています。
教材研究，単元づくり，授業づくり，どんな些細なことでもお手伝いさせていただきますので，お気軽にご連絡ください。

kubo1214@wakayama-u.ac.jp

# らいぶすくえあ＃3

## 外国語活動

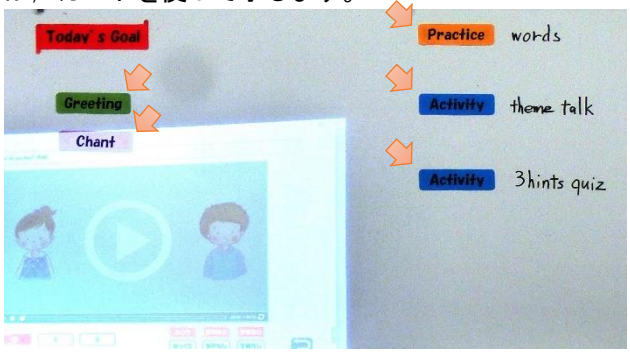
3年A組担任
中村 正雄

## 魅力的な外国語活動
### ～アクティビティを紹介します～

いよいよ来年度から，小学校外国語活動及び外国語科が必修となります。子どもたちにとって外国語は身近にあるけれど，難しいというイメージがあります。だからこそ子どもたちが「外国語って楽しいんだ」と思える授業をめざして取り組んだ３年Ａ組の実践を紹介します。

**○活動カード**

どんな活動を行うのか，今どの活動を行っているのか，カードを使って示します。




カードには，greeting(あいさつ)・song(歌)・chant(チャンツ)・practice（練習)・review(復習)・activity(活動)・reflection(振り返り)があります。授業の内容によって使い分けています。色で分けることにより，視覚的に学習の流れが分かるようにしました。そして，カードを内容ごとに貼りかえていくことで，今どの活動をしているのかも確認できます。

**○テーマカード**

カードに単語と絵を入れておきます。ペアになって１枚引き，描かれている絵に関して質問をします。例えば野菜が描かれていれば「What vegetable do you like?」と質問して相手に答えてもらいます。「Do you like carrots?」など様々に変化させることもできます。ペアの相手と会話を練習する中で，子どもたちの良いところをみとり，全体で共有していきます。「Me, too.」「Really?」「Sounds good.」「How about you?」と反応や返事を入れると，より会話に近づきます。

続けていくことで高学年での“small talk”にもつなげることができます。

**○アップダウンゲーム【数字】**

学習した数字が書かれたカードを用意し，封筒に入れておきます。例えば，Ａの封筒に１～10，Ｂの封筒に 11～20 または１～20 を入れます。学年や発達の段階に合わせてカードの枚数を変えます。そしてペアになって相手が引いたカードを当てます。当てる人は数字を言って当てますが，外れたら当てられる側が Up か Down でヒントを出します。３回までなどとルールを決めると盛り上がります。

**○ビンゴゲーム【単語学習・What do you like?】**

定番の活動ですが，１つルールを加えます。それは，自分たちで友だちに質問してビンゴシートを作ることです。例えば３年生「What do you like？」の学習では，動物や野菜，食べ物など分野を決めて「What animal do you like?」のように友だちに質問します。そして聞いた答えをビンゴシートに記入していきます。友だちに質問することでビンゴシートが完成に近づき，友だちにどんどん質問してみようという意欲にもつながります。アルファベットを質問すると，アルファベットの練習にもなります。

**○買い物ゲーム【How many～？単語学習・数字】**

子どもたちは，10 枚のコインで買い物をします。買い物できるお店は４つあり，それぞれ品物は同じですが，買うのに必要なコインの枚数が違います。

子どもたちは，買い物カードを引いて２つの物を買いに行きます。にんじんを指さして「How many coins?」「５(coins)」などとやりとりすることで実生活に近い経験をすることができます。

しかし，しかけとして１つの店で２つ買おうとすると必要なコインが 10 枚を超えてしまうようにします。そうすることによって店員に「How many coins?」と言って何枚必要なのか尋ねなければいけないという必然性が生まれます。



## 附属人

**# Let's start English class!**

日々，アクティビティを研究・開発しています。
作ったカードは 500 枚を超えました。
子どもたちにとって魅力的な授業になるよう情報を交換できればと思います。



potter71@wakayama-u.ac.jp

# らいぶすくえあ#4

生活科
2年A組担任
田中　伸一

## 元気な野菜を育てよう

１学期は，自分で選んだ夏野菜を“野菜先生”（ゲストティーチャー）に教えていただきながら大切に育て上げました。野菜を大きく育てるために大切なことは，「水やり（頻度や量），太陽の光（雨が続くとミニトマトの実が赤くならない），根（土から栄養を吸収する），そして毎日世話をし続けることである」と，体験をとおして学びました。



２学期は，大根作りに取り組みました。１人１袋栽培で，土嚢袋（右図）に自分で混ぜた土を入れました。

**〇夏野菜の観察をしよう！**

夏野菜の根はどうなっているのでしょうか。２学期の学習は，１学期から育ててきた夏野菜の根を観察した時の「根が袋いっぱいに張っている。」という子どもたちの驚きの声からスタートしました。

「どんな野菜を育てよう？」との問いに，思いを交流する中で「自分の土と肥料でもっと元気な野菜を育てよう」と決めました。

**〇土作り名人になろう！**

大根は，どんな土だと元気に育つのでしょうか。「ふわふわ」「さらさら」「栄養たっぷり」「湿っている」など一人一人の作りたい土のイメージに近づくように土作りを行いました。大根の成長を考えながら，「根が伸びてきたときに肥料に当たるようにしたい。」「土に栄養が染み出るように交互に入れる。」「ミミズを入れると，うねうねして土をやわらかくしてくれる。」など，それぞれ工夫していました。

**〇虫よけ博士になろう！**

順調に育っていた大根ですが，問題発生！多くの大根が急に枯れてしまいました。調べてみるとヨトウムシによる被害だとわかりました。子どもたちが生態を調べ，考え出した対策は，①虫よけネット作戦，②トラップ作戦，③におい・虫よけ作戦です。

10 日間ほど作戦を試し，途中経過について課題と改善策を交流しました。

**＜ネット作戦＞**





・袋に空けた穴が大きいから小さくする。
・袋をかぶせてあると，大根は息ができない。
・ネットの下に隙間がある。

◎改善策
・袋ではなく，穴の小さいネットを使う。
・つながっているネットを使う。

**＜トラップ作戦＞**

・トラップにひっかかっていない。

◎改善策
・トラップの位置を考える。（土の上？土と水平？下？）

**＜におい・虫よけ作戦＞**

・自分は良いにおいだけど，本当に虫が嫌なにおい？

◎改善策
・本当に虫が嫌がるにおいを探す。
・作り方を調べる。





このように，各作戦の改善策に気付くことができました。

授業の次の日には，もう新たな工夫に取り組んでいました。子どもたちの作戦は，元気な大根を収穫する日まで，まだまだ続きます。

一人一人，大根を大切に育ててきたからこそ，元気に育てたい，大根を守ってあげたいという思いが強く伝わっています。“野菜先生”の「野菜作りは自然が相手。だからこそ，自分たちにできることを毎日やってあげることが大切。」を胸に，今朝も元気に野菜の健康観察に向かう子どもたちの姿があります。夢中になれるものに出合い，真剣に考え，試し，取り組んでいける姿をこれからも大切にしていきたいと思います。

## 附属人

### ＃ 野菜作り，夢中



子どもたちが夢中になれるものに出合った時の姿が大好きです。毎日の生活に野菜の存在があります。愛情をもって毎日お世話すれば野菜もたくさん話してくれます。

子どもと一緒に土にまみれ，野菜作りに夢中になってみませんか？

s1tanaka@wakayama-u.ac.jp

# らいぶすくえあ#5

道徳科
1年B組担任
田中　千映

## 道徳的行為に関する体験的な学習

道徳科の授業づくりでは，子どもたちが自分との関わりで考えられるようにするため，どのような工夫が必要かと考えています。１年生「ハムスターの赤ちゃん」「ぼくのこと　きみのこと」の２つの教材において，１時間の授業の中に「道徳的行為に関する体験的な活動」を取り入れ，自分との関わりから考えようと取り組んだ実践について紹介します。

**「ハムスターの赤ちゃん」**

授業の前半では，赤ちゃんが生まれたばかりのお母さんハムスターの気持ちと，10 日たって赤ちゃんが大きくなったときのお母さんハムスターの気持ちを考えました。

赤ちゃんが生まれたばかりの時
◍早く大きくなってね　◍赤ちゃんが生まれて嬉しいな
◍けがをしてほしくない　◍痛くしないように運ぶよ
◍落とさないように　◍守るよ　◍大切にするよ
10 日たって赤ちゃんが大きくなった時
◍嬉しいな　◍大きくなってよかった
◍頑張ってよかった　◍けがや病気もなくよかった
◍もっともっと大きくなってね
◍これからも元気いっぱい育ってね

お母さんハムスターの気持ちを考えた後，「みんなのお家の人も，みんなのことをどんな気持ちで育ててくれているのだろう」と子どもたちに投げかけました。子どもたは，**「ハムスターのお母さんと同じ気持ちと思う」「大事に思っているかな？」**とつぶやきました。

そして，子どもたちには内緒で書いてもらっていたお家の人からの手紙を一人一人に渡しました。




お家の人からもらった手紙を読んだ子どもたちは，**「嬉しい」「嬉しくて，泣きそう」「ありがとう」「こんな気持ちで育ててくれたんや」「ハムスターのお母さんと同じこと書いている」「お返事を渡したい」**と話していました。

子どもたちの言葉や手紙を読む表情からも，自分もハムスターのお母さんと同じように大切に思われ育てられていたことに気づくことができたと考えます。

**「ぼくのこと　きみのこと」**

登場人物のよいところや苦手なことを話し合った後，自分のよいところを考えました。自分のよいところがたくさん見つかる子もいれば，なかなか見つからない子もいました。そこで，友達に聞いてみようということになりました。




友達に自分のよいところを聞いている時，子どもたちはとてもいい表情をしていました。

また「自分のよいところを教えてもらってどんなことを思いましたか」の発問に対し，以下のような発言がありました。

**◍こんなによいところがあると思ってくれて嬉しい**
**◍自分にもこんなよいところがあったってわかった**
**◍言ってもらったことを続けたい**
**◍よいところをもっと増やしたい**
**◍もっと「すごい」とか言ってもらいたい**

この授業をとおして，子どもたちは自分のよさに目を向ける喜びを感じることができたと考えます。

今回の２つの授業において，「道徳的行為に関する体験的な学習」を取り入れたことで，教材と自分との距離が縮まり，自分との関わりから考える子どもたちの姿が見られたと考えます。

## 附属人

**# 自分との関わり，道徳的行為に関する体験的な学習**



子どもたちが，「自己のよりよい生き方」について，自分の体験や友達の考え方と比べながら探究できる道徳科の授業をめざし，研究を進めています。

chie1219@wakayama-u.ac.jp

# らいぶすくえあ#6

## 健康教育

### 養護教諭

### 森本 孝子

## 輝く未来につながる健康教育
### ～元気で安全な生活ができるふぞくっ子～

『ふぞくっ子が今日も元気で安全に過ごせるように』という願いのもと，保健室の一日がスタートします。

そして，一人一人の子どもが健康の保持増進の素地となる生活力を身につけ，輝く未来に向けて生きる力を育むことができる健康教育に取り組んでいます。

### ◎最高のパフォーマンスを発揮する第一歩は？

#### 集中力を高めるための生活

５年生で，「体育の授業中に最高のパフォーマンスを発揮するために必要なことは何か考えよう。そして，そのために何ができるかを考えて，自分ができる第一歩を踏み出そう」に，取り組みをしました。

大事なのは，安全に留意することや体を動かすことの意識です。そのためには，集中力を高めることが必要です。それを実現するための具体的な生活行動について聞いてみました。

その結果，子どもたちから「早寝早起きなどの睡眠・栄養バランスの取れた食事・読書・好きなことをする・音楽を聴く・勉強する」などの意見が出ました。

さらに掘り下げ，「早寝早起きは何時？」「好きなことって何？」「どんな音楽？」というように，「そのために自分なら具体的に何から始める？」という問いかけをしました。

このように，すぐにでも始められることを具体的に考え，出し合うことで，自分にはない視点に気づくことができ，生活力を高めて発展させることができます。

#### 睡眠力を高めるための生活

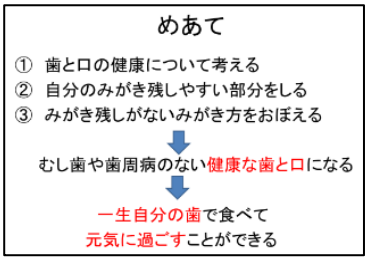
前述の集中力を高めるためにできる具体的な生活行動の中で，最も多かったのは睡眠に関することでした。そこで，質の良い睡眠が健康を支えていることを理解し，生活実践へとつなげていくことを目的に，次の３点を中心に学習しました。

① レム睡眠・ノンレム睡眠
② 睡眠の３大役割
③ 記憶のゴールデンタイム

子どもたちは，自分の生活と睡眠状況をふり返り，学習したことを活かして，自分ができる具体的な第一歩を考えました。睡眠を中心に，より良い生活習慣へと改善を図り，元気にパワーアップをしながら，最高のパフォーマンスを発揮していくことが期待できると考えています。

### ◎ブラッシング指導






［図１］

対象：４年生
内容：①歯と口の健康に関するアンケート結果発表
（児童・保護者事前アンケート実施）
②みがき残しやすい部分とみがき方のポイント説明（学校歯科医）
③歯垢染め出しと観察スケッチ⇒確認
④自分の歯に合ったみがき方を工夫してきれいにみがく

４年生では，乳歯と永久歯が混在し，歯並びや噛み合わせが整わず，みがき残しが多いことが考えられます。また，歯肉炎の発症因子が増える思春期を迎える前に，子ども自身が歯のみがき残し状況を確認し，むし歯予防・歯周病予防に努めることが，生涯にわたる健康な生活につながると考え，めあて（図１）を提示しました。

アンケート結果を発表することで，子どもが他者の意見から，歯と口の健康のための生活行動について新たな視点をもつことができます。子どもたちは，お家の人が自分たちの一生の健康を考えて，歯と口の康健に関して熱い思いや願いをもっていると知ることができます。それによって，子どもが自分の歯みがき習慣をふり返り，改善へとつなげられる一助になると考えて取り組んでいます。

## 附属人

### # 生活力，ふり返る，考える



かけがえのない存在のふぞくっ子。保健室では，一人一人の輝く未来に向けて，元気いっぱい・笑顔いっぱい・優しさいっぱいの子どもたちの可能性を信じて一緒に歩んでいます。

笑顔で教室に戻れる保健室!!
パワーアップできる保健室!!
考えて行動できる保健室!!

wtk8486@wakayama-u.ac.jp

# らいぶすくえあ#7



算数科
1年A組担任
松本　都望

## たすのかな　ひくのかな
### ～子どもが動く！演算決定～

第１学年では，たし算かひき算の演算決定の単元までに，その意味理解を図り，計算の仕方を学習しています。しかし，「たし算の学習だからたし算」「ひき算の学習だからひき算」のように，安易に演算決定してしまう子どもがいます。問題場面を捉え，どんな演算を適用すればよいかをよく考えて演算決定させたいと思っています。

そこで，「お話・数図ブロック・絵・図・式」を用いて，演算決定の理由を図に表したり，図を自分の言葉で話したりすることを大切にしようと考えました。それにより，学習のねらいをより確実に達成できるだけでなく，数学的表現力を育てられると考えています。

また，絵を見てたし算やひき算の問題を自分で作ることにしました。自分で作った問題に取り組むことで，より主体的な演算決定につながると考えました。

**❑たし算の問題場面**



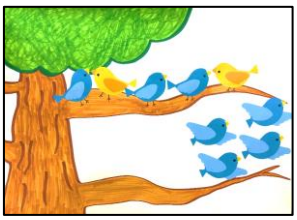
子どもたちは，上のような絵を見て，次のような問題文と式を考えていました。

**「子どもが６人います。７人遊びに来ました。みんなで何人ですか。」式：６＋７＝１３**
**「男の子が６人います。女の子が７人います。みんなで何人ですか。」式：６＋７＝１３**

増加場面と合併場面の問題を作り，演算決定していました。２つの問題文は違いますが，同じたし算になることを全員で共有できました。

**❑ひき算の問題場面**

引き算の問題場面では，右の絵を用意しました。鳥の色や違いや飛んでいる様子に気付けるように工夫しました。

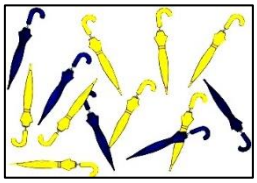


**「鳥が９羽います。４羽飛んで行きました。残りは何羽ですか。」式：９－４＝５**
**「青い鳥が７羽います。黄色い鳥が２羽います。違いは何羽ですか。」式：７－２＝５**

求残場面と求差場面の問題を作り，演算決定しました。子どもたちは，「違うお話だけど，どちらもひき算になります。」と，まとめていました。

**❑たし算や引き算の問題場面**

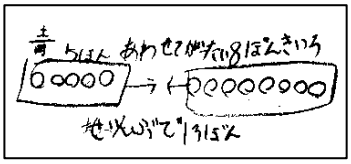
たし算にも引き算にも考えられるよう，右の絵を用意しました。



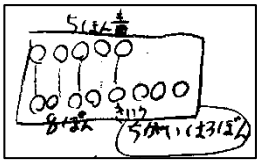
**「青い傘が５本あります。黄色い傘が８本あります。合わせて何本ですか。」式：５＋８＝１３**
**「青い傘が５本あります。黄色い傘が８本あります。違いは何本ですか。」式：８－５＝３**

合併場面と求差場面の問題を作り，ノートに下のような図を描きながら演算決定しました。

**〈たし算の図〉**



**〈ひき算の図〉**



上の図や振り返りの「最初，たし算のお話だと思ったけど，みんなのお話を聞いていたら，ひき算だとわかりました。」から，場面の異なる問題に気付いたと考えられます。

子ども達は，１枚の絵を見て図に表しながら問題を作ることで，主体的な演算決定ができました。自分が作った問題を，「この問題は，何算になるのかな？」と考えることで切実感をもち，自分事として演算決定をする姿が見られました。それは，本学級の子ども全員が，ノートに図を描いて考えられたことからもわかります。１枚の絵から合併場面と求差場面を生み出し，比較しながら考えさせる学習活動は，たし算とひき算の具体的なイメージを伴った理解を深めるために有効だったと考えています。

## 附属人

### # 算数，たしざん，ひき算



子どもが「やりたい！」と思える算数の課題作りに取り組んでいます。12月26日（木）第22回冬季算数授業研究大会　和歌山大会では，子ども達の日常（ドッジボール）場面から，求差と求大の場面を比べたいと思っています。

算数の課題について，一緒に考えましょう。

tomomats@wakayama-u.ac.jp

# らいぶすくえあ＃8

体育科
２年C組担任
南　拓哉

## 表現遊び
### ～生き物の生活を表現しよう～

生き物の生活を表現する遊びに取り組みました。虫の世界，動物の世界，海の生き物の世界を表現することにしました。

**１．表現の変化のために**

生き物の世界や子どもたちの表現に変化が見られるように，「初め・中・終わり」というストーリーの構成と音楽を準備しました。音楽は，子どもの好きな映画で使われている曲から選びました。

学習の初めに，音楽を聞いて感じられる情景や生き物がどのような動きをするかを話し合い，全員で共有するようにしました。

**２．多様な表現の良さ**

ゾウの動きを共有している時，恥ずかしくて一人ではできないという子がいました。そこで，数人の友だちと一緒にゾウを表現しました。それを見ていた子どもが，「群れに見えるな」とつぶやきました。その後，全員でゾウになり，大きな群れになりました。上手にする必要はなく，一人一人の表現の違いに目を向け，多様な表現の良さや自分がその生き物になりきっていることの大切さを子どもたちに伝えました。



**３．生き物の世界**

**（１）虫の世界**

ある音楽を聞いた子どもたちから，「嵐のような感じ」という発言があり「チョウになって飛び回り，途中で嵐に遭う。その後また飛び回る。」というストーリーにしました。子どもたちは，嵐に遭った時のチョウの様子を，飛び回って表現していました。

しかし，一度全員で「嵐に遭ったチョウは，どんな様子か」を考えるようにしました。すると，「掴まったり，隠れたりしている」と子どもたちから出され，止まってじっとしていたり，風に揺れるように止まったりする表現へと変化が見られました。

**（２）動物の世界**

学習の初めに，クマ・ヘビ・ウサギになって「歩く・這う・跳ぶ」動きの感覚遊びをしました。その後，自分のなりたい動物とストーリーを考えて動物になりきりました。そして，自分がなった生き物とストーリーをペアで伝え合いました。「表現したものが伝わる喜び」「どうすれば友だちに伝わるのかを考える」の２点が，表現遊びを楽しむ力になるということを和歌山大学の先生に教えていただき，取り入れました。

また，ペアにした理由は，じっくりと友だちを見ることができるからです。「獲物に近付くためにゆっくり歩いているのがわかった」と友だちの表現について建設的に話し合いをしていました。

**（３）海の生き物の世界**

動物の世界でのペア活動を取り入れ，海の生き物の世界を表現しました。初めに「アザラシ」を全員で表現しました。ところが，アザラシの動きが他の生き物にも影響し，サメになっても床を這うように泳ぎ，それぞれの表現に動きの変化がない場面がありました。

しかし，だんだんと場を広く使って表現したり，速さに変化を付けて表現したりするようになりました。ペアでの話し合いの場面では，見ている友だちも参加して，友だちの話に出てくる生き物になる様子も見られました。



**４．まとめ**

このように，表現遊びの取り組みでは「生き物になりきる」を大切にしました。また，「友だちに伝わる喜びがある」「どうしたら友だちに伝わるのか考える」ということが，子どもたちが表現遊びに没入していく要因になると分かりました。みなさんも，生き物になりきる表現遊びに取り組まれてはいかがでしょうか。

## 附属人

＃表現遊び，生き物

子どもたちの言葉・動きを大切にして，楽しく運動できる授業づくりに取り組んでいます。

minataku@wakayama-u.ac.jp



# らいぶすくえあ#9

国語科
4年A組担任
川端 大樊

## 「一つの花」の読みを深める
### ～カリキュラム・デザインと比較する読み～

**1．カリキュラム・デザイン**

「一つの花」では，題名に込められた思いを考える学習課題を設定しました。題名からゆみこの父の思いを想像して読みを広げ，深めたいと考えました。本単元では，子を思う親の気持ちを理解することが重要です。しかし，４年生の子どもたちが，親の思いを実感することは難しいものです。

そこで，保健体育の心と体の学習とつなげました。親に自分が生まれた時の思いを聞くことで，国語の学習に生かすことができ，親の思いを知った上で物語を読むと，より深く読むことができると考えました。

親から自分が生まれた時の思いを聞いてメモ（図１）を取ったり，手紙（図２）をもらったりして，思いに触れる時間を多くとることにしました。子どもたちは，これらの取り組みによって親の苦労や努力に触れることができ，ゆみこを思う父の気持ちに寄り添うことができました。

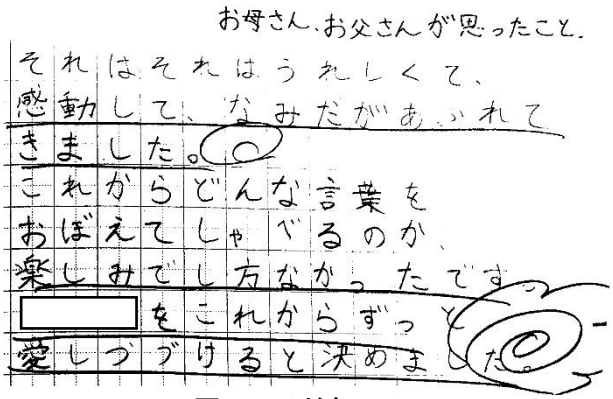



図１：子どものメモ

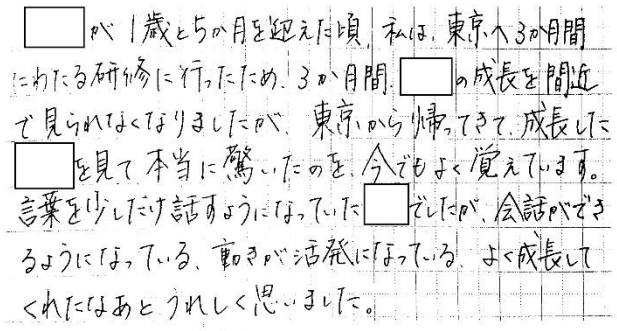



図２：親からの手紙

**2．「一つの～」を比較しながら読む**

「一つの花」の本文に出てくる「一つ」がついた言葉に注目して読み進めることにしました。つまり，ゆみこの父が，最後に渡す「一つだけのお花」と，それまでに出てきた「一つだけのおにぎり」「一つだけのおやつ」などと比較しながら物語を読ませました。

父が最後に渡す一つだけのお花は，父の思いが込められており，ゆみ子への成長や幸せを願うものであることに気づかせたかったからです。父の思いに気づかせ，自然と物語の面白さを実感し，心が揺れ動く瞬間をつくりたいと考えていたからです。

子どもたちからは，「あれ？このお父さんが渡すお花は少し今までと違う」「なんでお花を渡したんだろう」と活発な発言がありました。これは，比べて読んだからこそ出てきた発言ではないでしょうか。（下図）



**3．カリキュラム・デザインによる成果**

子どもたちは，ゆみこを思う父の思いや母の思いに近づき，読みを深め，考えを広げることができました。４年生の子どもたちにとって，親の思いに触れたり，考えたりすることが少ない中で，見方・考え方を広げられるいい機会となりました。

また，カリキュラム・デザインの視点から保健体育とつなげて学習することができました。このほかの単元においても，様々な教科とのつながりを考えることで，子どもたちの学習の様子は変わるのだと考えるようになりました。

今回の実践を生かして，子どもたちに物語の面白さを伝えられる実践を重ねていきたいと考えています。

## 附属人

**＃　一つの花，カリキュラム・デザイン**



子どもたちが，物語の面白さを実感できるような国語科の授業をめざしています。

国語科での授業研究や未来に生きて働く資質・能力の育成に取り組んでいます。国語の授業を一緒に考えたいと思いますので，気兼ねなくメールをいただければ幸いです。

dai1210@wakayama-u.ac.jp

# コラム　外国語活動あれこれ




外国語に親しめるよう，体験的で日常的なアクティビティーを取り入れています。また，他教科等とつなげ，外国の文化に触れて理解を深められるよう，カリキュラム・デザインを意識しています。

和歌山の魅力を外国の方々に伝えるべく，関西国際空港に行ってきました。外国語活動が授業中だけの学習活動になってしまわないように，総合的な学習の時間とのカリキュラム・デザインを意識しました。

子どもたちは，事前にグループで何度も練習した話し方を活かしてインタビューしたり，和歌山の魅力を伝えたりできたようです。バスを待つご家族が，笑顔で子どもたちの話に耳を傾けてくださいました。作成してあったリーフレットにも興味を示してもらえました。

帰りの電車の中では，どこか満足気で誇らしい表情が多く見られました。





本校には，４年生で行う高野山合宿があります。高野山では，外国からの観光客を大勢見かけます。そこで，観光客のみなさんに高野山以外の和歌山のいいところも知ってもらおうと，「Welcome to Wakayama!」という，カードを渡す取り組みを計画しました。

学習した表現や調べたことを発信し，カードを読んでもらうことで，リアルに外国の方の反応を知ることができます。「英語が通じる！」「わかってもらえた！」という体験が，外国語活動の楽しさの一つになると確信しています。

## FROM EDITORS

新しい節目を迎えた『LIVE 創 REATOR』には，「生き生きと本物を創り出すひと」という意味が込められています。私たちが創り出す本校の取り組みをご紹介しています。

今年度の発行は，これで最終となります。研究広報部では，皆さんの授業づくりのお役に立てるよう，情報発信をすすめてきました。本冊子をお読みいただいた感想やご意見など，お寄せいただければ幸いです。下記メールやHPよりお声をお聞かせください。

和歌山大学教育学部附属小学校
〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-1
TEL　073-422-6105
FAX　073-436-6470
E-mail　fuzoku@ml.wakayama-u.ac.jp
URL　http://www.aes.wakayama-u.ac.jp

Mail

HP



研究広報部員：中西　中岡　糸我　静川　中村　川端
デザイン&編集：D@i'z Art Image

研究広報部